

※当報告書が区市町村に返送された際などに御利用ください。

※「地域保健・健康増進事業報告」:「健増報告」と表記します。

※「乳がん検診精密検査結果報告書(東京都統一様式)」と「地域保健・健康増進事業報告集計表」との対照表:「対照表」と表記します。

◆乳がん検診における精密検査方法

- ・「東京都乳がん検診の精度管理のための技術的指針(令和6年8月)」のP22「乳がん検診チェックリスト(検診実施機関用)」のうち「1 対象者への説明」の1-(2)では、精密検査方法として、「マンモグラフィの追加撮影や超音波検査、穿刺吸引細胞診や針生検等」を精密検査方法としています。
- ・国立がん研究センター「がん情報サービス」(https://ganjoho.jp/public/pre_scr/screening/breast.html)では、乳がん検診の精密検査について「乳がん検診における一般的な精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。」とされています。
- ・「マンモグラフィによる乳がん検診の手引-精度管理マニュアル-(第7版)」では、細胞診の種類として乳頭分泌液細胞診及び穿刺吸引細胞診の2種類が、組織診の種類として針生検、吸引式組織生検及び外科的生検の3種類が示されています。
- ・健増報告作成要領(令和2年度分)には、乳がん検診の精密検査として不適切な方法の記載はありません。
- ・そのため、「☒ 上記以外」のみに記入があった場合を含め、いずれかにチェックがあれば、「精密検査受診」として取り扱うことになります。

○健増報告項目:「異常認めず」(対照表項目①)

健増報告での「異常認めず」には、乳房に異常が認められなかった場合に加えて「乳房には病変がない悪性腫瘍」も含まれます。

○**健増報告項目：「乳がんであった者」（転移性を含まない）（対照表項目②）**
「乳がんのうち臨床病期0・Ⅰ期のがん」（対照表項目③+④）
 ⇒③（□0期がん）及び④（□Ⅰ期がん）にチェックがある者の数を計上してください。

「臨床病期0・Ⅰ期のうち非浸潤がん(臨床病期0期)」(対照表項目④)
⇒③(□0期がん)にチェックがある者の数を計上してください。

○健増報告項目:「乳がん以外の疾患であった者(転移性の乳がんを含む)」
(対照表項目⑥)

乳がん以外の乳房の疾患として、乳腺症、線維腺腫、嚢胞、葉状腫瘍等が該当します。

乳がんの病期

0期	非浸潤がん。あるいはパジェット病で、きわめて早期のがん
I期	がんの大きさが2cm以下で、リンパ管や他の臓器に転移していない
IIA期	がんの大きさが2cm以下で、わきの下のリンパ管に転移し、そのリンパ管は固定されておらず動く、もしくは、がんが2cmを超え5cm以下の大きさをリンパ管や他の臓器への転移はない
IIB期	がんが2cmを超え5cm以下の大きさを、わきの下のリンパ管に転移し、そのリンパ管は固定されておらず動く、もしくは、がんが5cmの大きさを超え、リンパ管や他の臓器への転移はない
IIIA期	がんの大きさが5cm以下で、わきの下のリンパ管に転移し、そのリンパ管は固定されて動かないか、リンパ管が互いに癒着している、または、わきの下のリンパ管には転移はないが皮膚の内側のリンパ管に転移がある もしくは、しこりの大きさが5cm以上で、わきの下または胸骨の内側のリンパ管に転移がある
IIIB期	がんの大きさやリンパ管への転移の有無に関わらず、しこりが胸壁に固定されていたり、がんが皮膚に出たり皮膚が崩れたり皮膚が欠けているような状態 しこりがない炎症性乳がんもこの病期に含まれる
IIIC期	がんの大きさに関わらず、わきの下のリンパ管と胸骨の内側のリンパ管の両方に転移がある、または鎖骨の上下にあるリンパ管に転移がある
IV期	他の離れた臓器への転移（骨、腎臓、肝臓、脳などへの遠隔転移（えんかくてんり））がある

※非浸潤がん：がん細胞が乳管や乳腺小葉の中にとどまっている乳がん。

●**リンパ管炎**：乳管や乳輪の表皮内にがん細胞がみられ、乳管や乳輪が赤くなり、発疹のような状態となるもの。

引用：国立がん研究センター「がん情報サービス」
<https://ganjoho.jp/public/cancer/breast/treatment.html>